

編修趣意書

教育基本法との対照表

受理番号	学校	教科	種目	学年
26-96	中学校	国語科	国語	3学年
発行者の番号・略称	教科書の番号・略称	教科書名		
38 光村	国語 931	国語3		

I. 編修の趣旨及び留意点

編修の趣旨

「言葉」と向き合い、新しい時代を生き抜く「国語の力」をはぐくむ

- ・ **確かな学びを**——国語の学習のしかたがわかり、主体的に取り組めるように。
- ・ **言葉との出会いを**——たくさんの言葉と出会い、豊かな心、考える力を培えるように。
- ・ **未来をひらく力を**——多様な作品を通して、人間、社会、世界へ思いを巡らせるように。

編修の留意点

1 言語に対する関心を高め、生きてはたらく国語の力を育成する。

- ・ 言語の教育としての立場を重視し、国語に対する関心や理解を深めるとともに、実生活で生きてはたらし、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を言語活動を通して育成することを目指しました。

2 伝統的な言語文化に触れて豊かな感性を育成する。

- ・ 我が国の言語文化に触れ、それらを享受・継承し、新たな創造へとつないでいくために、生涯にわたって古典に親しむ態度の育成を目指しました。

3 コミュニケーション能力を育成する。

- ・ 相手や目的、意図、場面に応じ、互いの立場や考えを尊重し、課題の解決に向けて協力し合ったり助言し合ったりする活動を通じて、コミュニケーション能力を育成することを目指しました。

4 豊かな心を育成する。

- ・ 読書に親しみ、ものの見方・感じ方・考え方を広げたり深めたりする態度や、自分の読書生活を振り返り、日常的な読書をより豊かなものにしようとする態度を育成することを目指しました。

5 情報社会を生き抜く能力を育成する。

- ・ 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の学習活動において、課題解決を行う過程で、情報活用能力を育成することを目指しました。
- ・ 図書・資料の検索に図書館や情報機器を効果的に活用する方法などを学び、読書生活を充実させようとする態度と情報活用能力を育成することを目指しました。

6 社会の変化に主体的に対応する能力を育成する。

- ・ さまざまな読み物や学習活動を通じて、人と社会の多様性を認め、それを尊重する態度と、社会の変容に対応できる力を育成することを目指しました。

II. 編修の基本方針

編修の趣旨及び留意点で挙げた各項目を実現するために、以下の方針に基づいて教科書を作成しました。

■ 学習で身につける力を明確に示した教科書

- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」教材の冒頭には、「目標」を明示し、その学習でどんな力を付けるのかを、生徒に向けてはっきりと示しました。教材内に位置付けた「学習の窓」(p.29など)では、その学習を通して身に付ける力や文章の内容を理解するためのポイントを簡潔にまとめ、これを示しました。

■ 学習過程を提示し、主体的に学習に取り組むことができる教科書

- 生徒が、主体的に学習に取り組み、自ら課題を発見し、考え、解決できるように、冒頭に「学習の見通しをもとう」(p.8~12)を設けました。年間を通してどんな力を身に付けていくのかを見通し、それぞれの教材の学習のポイントを一覧にまとめてわかりやすく示しました。
- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」教材の冒頭にも、「学習の見通しをもとう」(p.36など)のコーナーを置き、図式化して学習の流れを理解しやすくしています。

■ 言語活動を通し、言葉の力を日常生活や社会生活に生かせる教科書

- 学習したことを広く日常生活や社会生活に生かしていけるよう、各教材には、学習のねらいに即した必然性のある言語活動を設定しています。
- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「文法」「言葉」には、「生活に生かす」「他教科に生かす」(p.40など)を位置付け、その学習で身に付けた言葉の力を生かすことのできる「実の場」を具体的に例示しました。

■ 「習得」から「活用」を重視した教科書

- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」では、「練習」教材(p.35など)を随所に設け、身に付けたい力をコンパクトに習得し、その後の教材の学習に有機的に活用できるように位置付けました。

■ 伝統的な言語文化を尊重し、国語と郷土を愛する心を育成する教科書

- 古い時代から現代まで受け継がれてきた、さまざまな古典作品を掲載しました。「季節のしおり」(p.31など)では、四季にちなんだ俳句・和歌や、季語を紹介することで、豊かな感受性とともにはぐくまれた日本の伝統的な言葉に触れる機会をもち、日本語そのものに興味をもつことを目指しています。

■ 読書の価値を実感できる教科書

- 教材ごとに、同一の作者、テーマなど、教科書での学習と関連させる「広がる読書」(p.50など)を示し、充実した読書生活を送るための場を設けました。「読書コラム」(p.99・192)では、作家や翻訳者、映画監督など多様な筆者による、読書への興味付けのメッセージを掲載しています。

■ 情報化時代を生き抜く力を身につける教科書

- 情報社会に的確に参画できる情報活用力を培うため、さまざまな情報の集め方(1年)や、メディアリテラシー(2年)、情報発信(3年p.58)などについて考えを深める教材を系統立てて取り入れました。著作権(2年)や情報モラル(3年p.62)などについても意識を高める工夫をしています。

■ 小・中9年間の系統性を重視し、生徒の発達段階に応じて、個性を引き出す教科書

- 学年のキーワードとして1年「確かさ」、2年「豊かさ」、3年「深さ」を設定しました。1年では小学校で身に付けた力をより確かなものにし、2年でそれをより高め、3年では充実感として深めていけるよう、教材構成を工夫しました。
- 学習活動には、生徒の具体的な発言を取り入れて考え方のヒントを示したり、「交流」の場を多く設けたりしています。生徒一人一人が個性を生かして学習に臨み、互いに助言し合ったり、認め合ったりしていく中で、心の豊かさや言葉の豊かさについて考え、気づき、学習することの喜びや達成感を得られるようにしました。

Ⅲ. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
表見返し・口絵・目次・中扉	○ 自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うために、表見返しと中扉では、自然が見せるさまざまな表情を取り上げた写真を掲載した。——【第四号】	・表見返し ・中扉 (p.15など)
	○ 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うために、口絵では、生徒の学習への興味・関心を引く視覚的な資料を多数掲げ、目次等で示す単元名では、「深まる学びへ」「視野を広げて」など、追究すべきねらいを明確に示した。——【第一号】	・口絵 ・目次
1 深まる学びへ 「春に」 「握手」 「季節のしおり」 「学びて時にこれを習ふ——『論語』から」 「社会との関わりを伝えよう」	○ 豊かな情操と創造性を培うために、学年開きとして詩教材「春に」を位置付けた。——【第一号】【第二号】	・p.16～17
	○ 個人の価値を尊重するとともに、自他の敬愛と協力を重んずる精神を養うことを意図して、小説「握手」を位置付け、人間の生き方について考えさせるようにした。——【第二号】【第三号】	・p.18～30
	○ 伝統や文化を尊重することを通じて豊かな情操を培うため、年間4箇所に位置づけた「季節のしおり」に、四季に応じた俳句・和歌や季語を配した。——【第一号】【第五号】	・p.31
	○ 真理を求める態度や、自主自律の精神、正義と責任、自他の敬愛と協力などの指針として「学びて時にこれを習ふ——『論語』から」を位置付け、生徒が自分の生き方を見つめ直すきっかけとした。さらに、「論語」が日本の文化の中に深く根ざすものであることも意識づけるようにした。——【第一号】【第二号】【第三号】【第五号】	・p.32～34
	○ 自他の敬愛と協力を重んじ、公共の精神を涵養するために、「社会との関わりを伝えよう」で、地域のお年寄りとの交流を題材として取り上げた。——【第三号】	・p.36～40
2 視野を広げて 「月の起源を探る」 「魅力的な紙面を作ろう」 「『想いのリレー』に加わろう」	○ 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うために、説明文教材「月の起源を探る」を位置付け、科学的なものの見方を示した。——【第一号】	・p.44～52
	○ 豊かな情操と道徳心、個人の創造性をはぐくむため、「魅力的な紙面を作ろう」を位置付けた。また、題材として京都への修学旅行を取り上げ、伝統文化の尊重にも触れるようにした。——【第一号】【第五号】	・p.54～57
	○ 公共の精神に基づいた幅広い知識と教養、また情報発信に対する責任を理解させるために「『想いのリレー』に加わろう」を位置付けた。——【第一号】【第三号】	・p.58～62
3 言葉を見つめる 「俳句の可能性」 「俳句を味わう」 「『批評』の言葉をためる」	○ 我が国の短詩型文化の伝統を尊重し、豊かな情操と創造性を培うことを目的に、俳句を読み味わう「俳句の可能性」「俳句を味わう」を位置付けた。——【第一号】【第二号】	・p.66～70
	○ 言葉についての幅広い知識と教養、自他の敬愛と協力の精神を「『批評』の言葉をためる」を通して感じ取らせるようにした。——【第一号】【第三号】	・p.73～77
読書生活を豊かに —名作を味わう 「高瀬舟」 「本の世界を広げよう」	○ 近代文学を味わうことを通じて日本の伝統と文化を尊重する態度を養うため、「高瀬舟」を位置付けた。また、「高瀬舟」の内容を通じて、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を育むようにした。——【第一号】【第五号】	・p.80～93
	○ 幅広い知識を身に付け、真理を求める態度を養うとともに、職業や社会生活について考えさせるために、「社会（世の中の仕組み）」「科学」「哲学」などをテーマにした数多くの書籍を紹介する「本の世界を広げよう」を位置付けた。——【第一号】【第二号】	・p.96～98
4 状況の中で 「挨拶」 「故郷」	○ 国際社会の平和と発展に寄与する態度を詩教材「挨拶」を通して培うようにした。——【第五号】	・p.102～105
	○ 幅広い知識と教養、真理を求める態度を「故郷」の登場人物の姿を通じて意識させるようにした。——【第一号】	・p.106～122

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
「新聞の社説を比較して読もう」 「慣用句・ことわざ・故事成語」	○ 幅広い知識と教養、真理を求める態度を、「新聞の社説を比較して読もう」を通じて養うとともに、そこで取り上げられている「和食の無形文化遺産登録」のテーマを通して、伝統と文化を尊重し、我が国と郷土を愛する心も涵養できるようにした。——【第一号】【第五号】 ○ 「慣用句・ことわざ・故事成語」の学習を通じて、日本語が育んできた伝統と文化を尊重する態度を養うようにした。——【第五号】	・ p.124～126 ・ p.127～128
5 いにしえの心と語らう 「古今和歌集 仮名序」 「君待つと——万葉・古今・新古今」 「夏草——『おくのほそ道』から」 「古典を心の中に」	○ 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する心を涵養するため、古典作品「古今和歌集 仮名序」「君待つと——万葉・古今・新古今」「夏草——『おくのほそ道』から」「古典を心の中に」を位置付けた。——【第五号】	・ p.134～156
6 論旨を捉えて 「作られた『物語』を超えて」 「話し合って提案をまとめよう」 「説得力のある文章を書こう」 「初恋」	○ 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度、また、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うため、論説「作られた『物語』を超えて」を位置付けた。——【第一号】【第五号】 ○ 個人の価値を尊重しながら、自他の敬愛と協力を重んずる態度を「話し合って提案をまとめよう」で、合意形成の話し合いを通して養うようにした。——【第二号】【第三号】 ○ 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うため、「説得力のある文章を書こう」を位置付けた。——【第一号】 ○ 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛することを、近代詩「初恋」を声に出して読み味わうことで培うようにした。——【第五号】	・ p.158～166 ・ p.168～172 ・ p.174～177 ・ p.178～179
読書に親しむ —世界の中で 「エルサルバドルの少女ヘスース」 「本の世界を広げよう」	○ 国際社会の平和と発展に寄与する態度と、生命を尊ぶ精神を、ノンフィクション「エルサルバドルの少女ヘスース」を通して培うようにした。——【第四号】【第五号】 ○ 国際社会の平和と発展に寄与する態度、個人の価値を尊重する態度、男女の平等、勤労を重んずる態度などをはぐくむため、「国際理解」「人権」「恋愛」「進路・夢」などをテーマにした数多くの書籍を紹介する「本の世界を広げよう」を位置付けた。——【第二号】【第三号】【第五号】	・ p.182～191 ・ p.193～195
7 未来へ向かって 「誰かの代わりに」 「わたしを束ねないで」 「三年間の歩みを振り返ろう」	○ 正義と責任・自他の敬愛と協力を重んじ自主自律の精神を養うとともに、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うために、論説「誰かの代わりに」を位置付けた。——【第二号】【第三号】 ○ 男女の平等の意識、真理を求める態度、自主自律の精神について、詩教材「わたしを束ねないで」を読み深めながら涵養できるようにした。——【第一号】【第二号】【第三号】 ○ 幅広い知識と教養を身に付け、主体的に社会の形成に参画する態度を、三年間の国語学習を総括する教材「三年間の歩みを振り返ろう」で、学びと社会生活との関わりを考えながら意識化させるようにした。——【第一号】【第三号】	・ p.198～203 ・ p.204～206 ・ p.210～214
学習を広げる（資料） 「温かいスープ」 「蟬の声」 「アラスカとの出会い」	○ 幅広い知識と教養を身に付け、自他の敬愛と協力、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うため、「温かいスープ」「蟬の声」「アラスカとの出会い」を位置付けた。——【第一号】【第三号】【第五号】 ○ 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する心を「古典芸能の世界—歌舞伎・浄瑠璃」「古典・近代文学の名作」「日本文学の流れ」でさらに深めるようにした。——【第五号】	・ p.236～239 ・ p.240～246 ・ p.247～253 ・ p.254～255 ・ p.256～261 ・ p.262～267
後見返し 「色いろの言葉」	○ 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する心を、日本の伝統色の名称を集めた「色いろの言葉」によって興味を引きながらはぐくむようにした。——【第五号】	・ 後見返し

IV. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

■ 特別支援教育・色覚特性への配慮

学習上の支援が必要な生徒のために、また、教科書のユニバーサルデザインという観点から専門家による校閲を行い、特に以下の点に配慮しました。

[学習の流れを把握しやすいように]

- 学習の流れを把握し、見通しをもてることで理解を助けるとの観点から、「話すこと・聞くこと」「書くこと」活動の冒頭に、活動の流れを図示した「学習の見通しをもとう」を位置付けました。また、「読むこと」教材内の「学習」においても設問に番号を振り、見出しを立てて、学習のステップをわかりやすく示しました。

[色覚特性への配慮]

- 色覚特性に配慮し、色による識別に頼ることなく、形（実線と破線による区別など）や濃淡で識別できること、判別しにくい色の組み合わせは行わないことなどを基本に図表を作成しました。また、色を問うような学習活動は設定しないようにしました。

■ 学年間の連携を図る配慮

2年から3年へのスムーズな連携と学習の蓄積に配慮しました。

「いつも気をつけよう」(p.13)

- 冒頭に、2年生で学習した内容を領域ごとにまとめたページを設けました。前学年で身に付けた力を振り返りながら、3年生の学習でこれを生かしていけるようにしたことで、学びを積み重ねていくことの重要性を意識付けることに配慮しています。

■ 学習の習慣化を図る配慮

年間を通して継続して取り組むコーナーを設け、学習の習慣化を図りました。

「続けてみよう」(p.14)

- 生活の中で感じた疑問や感動、言葉や物事への興味などを書き留めることを習慣化する活動を冒頭に示しました。1年間継続して取り組む達成感を味わうとともに、批評文などの学習を行う際の素材にもなるよう配慮しました。

■ 道徳教育との連携・人権教育への配慮

道徳教育・人権教育の観点からアプローチできるように配慮しました。

「話すこと・聞くこと」「書くこと」

- 「時と場合に応じた適切な言動」「相手の人格を尊重する」「それぞれの個性や立場を尊重する」など、題材や活動の選定に配慮しました。

「読むこと」

- 「自己を見つめる」「友情の尊さ」「異性への理解」「生命の尊さ」「自然を愛護し、美しいものに感動する豊かな心」「人間の強さや気高さ」「優れた伝統の継承と新しい文化の創造」など、題材の選定に配慮しました。

■ 未来に向かって力強く生きようとする力を育成する配慮

- 東日本大震災という未曾有の事態を経て、社会情勢や価値観が変容する中、生徒が未来に向かって力強く生きていくことに資する教材を「国語」の観点から選びました。生徒が自分の生き方を見つめ、「言葉の力」によって未来を切り開くことができるような教材を数多く取り上げています。

編修趣意書

学習指導要領との対照表，配当授業時数表

受理番号	学校	教科	種目	学年
26-96	中学校	国語科	国語	3学年
発行者の番号・略称	教科書の番号・略称	教科書名		
38 光村	国語 931	国語3		

I. 編修上特に意を用いた点や特色

構造上の特徴

1 「言葉」との出会いを大切にする。

- 3年間を通じて、言葉そのものを深く見つけ、言葉のもつ力を考える教材を多数位置付けました。
- 1年冒頭の「言葉に出会うために」では、言葉に出会う喜びと意義について触れました。3年に設けた「続けてみよう」のコーナーでは、心に残った言葉を常に書き留めながら、「アンソロジー」(p.14)を作る活動を通して、言葉に対する感覚を磨くことを習慣化するようにしました。
- 各学年の第3系列は、1年「言葉をつなぐ」、2年「言葉と向き合う」、3年「言葉を見つめる」とし、言葉をテーマにした教材を位置付けました。さまざまな角度から言葉についてじっくり考えられる場としています。

2 思考のプロセスが身につくように。

- 領域ごとに、学びの手順を統一し、「目標」「学習の窓」「学習を振り返る」「次へつなげよう」などの柱を立て、それぞれの具体的な手立てを示しました。生徒が、自分の言葉で感じ、考え、表現するプロセスを身に付けることができます。

読むこと	学習の見通しをもつ	話すこと・聞くこと／書くこと					
<p>「目標」</p> <p>教材冒頭に置き、何に注目して読んでいくかを見通せるようにしました。</p>	<p>学習の 見通しをもつ</p> <p>学習・活動に 取り組む</p>	<p>「目標」</p> <p>学習の焦点化を図りました。</p>					
<p>「学習」</p> <p>手引きを3つのステップに構造化しました。</p> <table border="1"> <tr> <td>1 確認しよう</td> </tr> <tr> <td>2 読みを深めよう</td> </tr> <tr> <td>3 自分の考えをもとう</td> </tr> </table>		1 確認しよう	2 読みを深めよう	3 自分の考えをもとう	<p>「これまでの学習を生かそう」</p> <p>既習事項を確認できる場を設けました。</p>		
1 確認しよう							
2 読みを深めよう							
3 自分の考えをもとう							
<p>「学習の窓」</p> <p>身に付ける力のポイントを示し、基礎・基本を確認できるようにしました。(全領域共通)</p> <table border="1"> <tr> <td>の</td> <td>学</td> </tr> <tr> <td>窓</td> <td>習</td> </tr> </table>	の	学	窓	習	<p>「学習の見通しをもとう」</p> <p>学習の流れを4つのステップに沿って示しました。</p> <table border="1"> <tr> <td> <p>見つける・集める</p> <p>↓</p> <p>深める・整理する</p> <p>↓</p> <p>まとめる・表現する</p> <p>↓</p> <p>伝え合う・つなげる</p> </td> <td> <p>学習の見通しをもとう</p> <p>① 学習の目的を明確にする。</p> <p>② 25ページをじっくり読む。</p> <p>③ スピーチの内容と構成を考える。</p> <p>④ スピーチの相手と目的を考える。</p> <p>⑤ スピーチの話題を考える。</p> <p>⑥ 見つける・深める・まとめる・表現する。</p> <p>⑦ スピーチを振り返って話し合う。</p> <p>⑧ スピーチをする。</p> </td> </tr> </table>	<p>見つける・集める</p> <p>↓</p> <p>深める・整理する</p> <p>↓</p> <p>まとめる・表現する</p> <p>↓</p> <p>伝え合う・つなげる</p>	<p>学習の見通しをもとう</p> <p>① 学習の目的を明確にする。</p> <p>② 25ページをじっくり読む。</p> <p>③ スピーチの内容と構成を考える。</p> <p>④ スピーチの相手と目的を考える。</p> <p>⑤ スピーチの話題を考える。</p> <p>⑥ 見つける・深める・まとめる・表現する。</p> <p>⑦ スピーチを振り返って話し合う。</p> <p>⑧ スピーチをする。</p>
の	学						
窓	習						
<p>見つける・集める</p> <p>↓</p> <p>深める・整理する</p> <p>↓</p> <p>まとめる・表現する</p> <p>↓</p> <p>伝え合う・つなげる</p>	<p>学習の見通しをもとう</p> <p>① 学習の目的を明確にする。</p> <p>② 25ページをじっくり読む。</p> <p>③ スピーチの内容と構成を考える。</p> <p>④ スピーチの相手と目的を考える。</p> <p>⑤ スピーチの話題を考える。</p> <p>⑥ 見つける・深める・まとめる・表現する。</p> <p>⑦ スピーチを振り返って話し合う。</p> <p>⑧ スピーチをする。</p>						
<p>「学習を振り返る」</p> <p>「目標」に対する振り返りを、単に「できた・できなかった」ではなく、生徒が自分の言葉で学習をまとめられる場を設けました。</p>	<p>次の学習に 生かす</p>	<p>「次へつなげよう」</p> <p>学習を振り返るだけでなく、学んだことを他教科や日常に生かせるよう、具体的な活用の場面まで示しました。</p>					

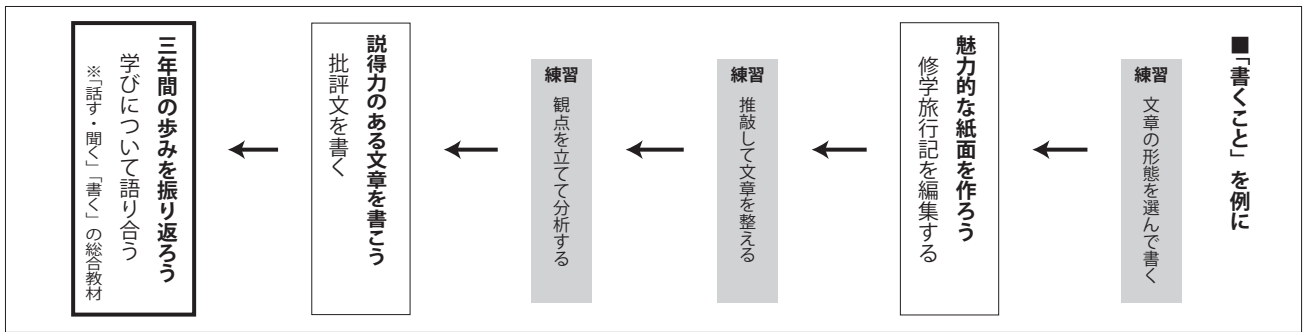
3 見通しをもって主体的に学べるように。

- 教科書冒頭に位置付けた「学習の見通しをもとう」(p.8~12)では、1年間でつける力を見通し、どんな力をどの教材で焦点化して学ぶかを視覚的にわかるように一覧表で表しました。今、学んでいることが前後の教材とどのように関わっているのかがひと目で理解でき、生徒が主体的に学習計画を立てたり、振り返りに使ったりすることができます。

説明・発表	話し合い	話し合い	話す・紹介	聞く	話すこと・聞くこと
学びについて語り合う	3年間の歩みを振り返ろう	課題解決に向けて合議を開く	話し合つて提案をまとめよう	相手や目的に応じたスピーチをする	教材
210	168	167	36	35	どんな学習をするのか見通してみよう
					何度も繰り返して積み重ねよう
					話題の設定・取材 社会生活の中から話題を決める
					自分の経験や知識を整理して考えをまとめる
					話す 語句や文を効果的に使う
					資料を活用して説得力のある話をする
					場面や相手の様子に応じて話し、敬語を適切に使う
					聞く 聞き取った内容や表現のしなさを評価する

4 「習得」と「活用」を繰り返し、力を積み重ねる。

- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域では、本教材と練習教材を設けました。練習教材は、1ページ構成で配当時間も1時間とし、一つの力に特化して習得を旨とします。そこで付けた力を本教材で活用することによって、学習を積み重ねていく構成になっています。



領域ごとの特色

■ 「話すこと・聞くこと」「書くこと」

- 学ぶ必然性が感じられる活動や題材を設定し、学んだことが日常生活で生きるようにしました。
- 学習を振り返り、次へつなげていく場面では、必ず「他教科に生かす」「生活に生かす」の項目を立て、身に付けた力が「実の場」で応用できるようなヒントを示しています。

■ 「読むこと」

- 文学的な文章では、生徒と等身大の人物が登場する作品をはじめ、日本の近代文学・随筆・詩歌など多様な作品世界をバランスよく位置付け、豊かな心をはぐくむことができるようにしました。
- 説明的な文章では、自然科学・社会科学・人文科学の幅広い分野から、生徒の興味を引くテーマを選び、主体的に読み進めながら文章構成や論理展開を学び、ものの見方や考え方を深めることができるようにしました。

■ 「古典」

- 生徒が興味をもって主体的に享受できるように、導入は「古今和歌集 仮名序」(p.134)を設定し、音読を楽しみながら古文の響きやリズムに親しめるようにしました。
- 古典をより身近なものとして捉えさせるために、図版(p.136~138・p.148~149)など生徒の興味を引くものを交えながら構成したり、古典の一節を引きながら身近な人に思いを伝える「古典の言葉を引用し、メッセージを贈ろう」(p.154)などの言語活動を設定したりする工夫をしました。

■「読書」

- 多様な作品に出会い、読書の楽しさを感じられるように、夏休み前と冬休み前に「読むこと」教材にはないジャンルの作品を位置付けました。冬休み前の系列は、人の生き方に焦点を当てたノンフィクションを置き、伝統の中で、災害の中で、戦争の中で、前向きに生きる人々の姿を通して、生徒が自分自身を深く見つめることができるようにしました。
- 「読むこと」教材の後には、作者やテーマと関連する本を紹介する「広がる読書」を設け、読書教材の「読書案内」と合わせて3年間で243冊の本を紹介しています。

	文学的文章（夏休み前）	説明的文章（冬休み前）
1年	光る地平線〈ファンタジー〉	桜守三代〈ノンフィクション・伝記〉
2年	世界で一番の贈り物〈外国作品〉	小さな町のラジオ発——臨時災害放送局「りんごラジオ」〈ノンフィクション〉
3年	高瀬舟〈近代文学〉	エルサルバドルの少女ヘスース〈ノンフィクション〉

■「情報」

- 課題解決を行う過程で、多様な方法で情報収集をし、それを活用できる力を育成するために、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」全ての領域で活動を取り入れました。
- 情報社会に的確に参画できる力を培うため、1年から3年まで情報に関する教材を特設するとともに、著作権や情報モラルなどについても意識を高められるよう、教材化を図りました。

	情報教材	情報コラム
1年	情報の集め方を知ろう〈情報収集〉	・本から情報を集める ・インターネットを利用する ・新聞の紙面構成の特徴を知る
2年	メディアと上手に付き合うために〈メディアリテラシー〉	・著作権について知る
3年	「想いのリレー」に加わろう〈情報発信〉	・情報モラル（話し合い活動と絡めて）

学習効果を高めるための工夫

■ 読みの基本を確認する（巻末折込）

作品や文章をより深く読み取るための観点として、「登場人物の心情」「要約と要旨」など基本的な学習用語を整理し、解説を加えたページを設けています。折込形式なので、いつでも参照しながら読みの基本を確認することができます。

■ 活動や着眼点を明示

○ 交流の場を明確に示す



マークを付し、課題について確認し合ったり、感想を述べ合ったりする場を明確に示しました。

○ 表現の幅を広げる



マークを付し、言語活動の種別に適した言い回しや語彙を集めています。（「話し合いで活用したい表現」など）話すとき・書くときの表現の幅が広がるように工夫しました。

○ 関連する他教材へのリンク



前に学習したことを振り返ったり、関連して学習したりすると効果的なページを示し、1年間における学習の積み重ねが容易に意識できるように工夫しました。

Ⅱ. 対照表

図書の構成・内容	箇所	学習指導要領の内容				時数
		A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと	伝統的な言語文化と国語の特性に関する事項	
1 深まる学びへ						
春に	16～17			(1)ア,エ		1
握手	18～30			(1)アイウエ(2)ア	(1)ウ(ア)(イ)	4
季節のしおり 春	31				(1)イ(イ)	—
学びて時にこれを習ふ——「論語」から	32～34			(1)ア,エ	(1)ア(ア)	2
練習 評価しながら聞く	35	(1)ウ				1
社会との関わりを伝えよう	36～40	(1)アイウ(2)ア				4
漢字1 熟語の読み方	41～42				(1)イ(イ)(1)ウ(ア)(イ)	1
2 視野を広げて						
月の起源を探る	44～52			(1)ア,イ,ウ	(1)ウ(ア)(イ)	4
練習 文章の形態を選んで書く	53		(1)ア			1
魅力的な紙面を作ろう	54～57		(1)ア,イ,ウ			4
「想いのリレー」に加わろう	58～62			(1)ア,エ,オ		2
言葉1 和語・漢語・外来語	63～64				(1)イ(イ)	1
3 言葉を見つめる						
俳句の可能性	66～69		(1)ア2年(2)ア	(1)ア,ウ		} 3
俳句を味わう	70			(1)ア,ウ		
言葉を選ぼう	71～72		(1)ア		(1)イ(ア)	1
「批評」の言葉をためる	73～77			(1)ア,エ		2
文法への扉1 すいかは幾つ必要?	78				2年(1)イ(ウ)(エ)	1
読書生活を豊かに—名作を味わう						
高瀬舟	80～93			(1)アイエオ(2)ウ		} 2
未来の私にお薦めの本	94～95			(1)オ(2)ウ		
読書案内 本の世界を広げよう	96～98			(1)エオ(2)ウ		
読書コラム ためになるってどんなこと?	99			(1)エオ(2)ウ		
季節のしおり 夏	100				(1)イ(イ)	—
4 状況の中で						
挨拶——原爆の写真によせて	102～105			(1)ア,ウ,エ		2
故郷	106～122			(1)アイウエ	(1)ウ(ア)(イ)	5
練習 推敲して文章を整える	123	(1)ウ				1
新聞の社説を比較して読もう	124～126	(1)ア,イ		(1)イ,ウ(2)イ		3
言葉2 慣用句・ことわざ・故事成語	127～128				(1)イ(イ)	1
漢字2 漢字の造語力	129～131				(1)ウ(ア)(イ)	1
季節のしおり 秋	132				(1)イ(イ)	—

図書の構成・内容	箇所	学習指導要領の内容				時数
		A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと	伝統的な言語文化と国語の特性に関する事項	
5 いにしえの心と語らう						
音読を楽しもう 古今和歌集 仮名序	134～135			(1)ア	(1)ア(ア)	1
君待つと——万葉・古今・新古今	136～145			(1)ア,ウ,エ	(1)ア(ア)	2
夏草——「おくのほそ道」から	146～154		(1)ア,イ,エ	(1)ア,ウ,エ	(1)ア(ア)	4
古典を心の中に	155～156			(1)エ,オ	(1)ア(ア)	1
6 論旨を捉えて						
作られた「物語」を超えて	158～166			(1)ア,イ,ウ,エ	(1)ウ(ア)(イ)	4
練習 話し合いを効果的に進める	167	(1)エ				1
話し合って提案をまとめよう	168～172	(1)ア,ウ,エ(2)イ				5
練習 観点を立てて分析する	173		(1)ア(2)ア			1
説得力のある文章を書こう	174～177		(1)ア,イ,エ(2)ア			5
初恋	178～179			(1)ア,エ		1
文法への扉2 「ない」の違いがわからない?	180				1年(1)イ(エ) 2年(1)イ(ウ)(エ)	1
読書に親しむ—世界の中で						
エルサルバドルの少女 ヘスース	182～191			(1)エ,オ(2)ウ		} 1
読書コラム 読書記録をつける	192			(1)エ,オ(2)ウ		
読書案内 本の世界を広げよう	193～195			(1)エ,オ(2)ウ		
季節のしおり 冬	196				(1)イ(イ)	
7 未来へ向かって						
誰かの代わりに	198～203			(1)ア,イ,エ		6
わたしを束ねないで	204～206			(1)ア,エ		3
漢字3 漢字のまとめ	207～209				(1)ウ(ア)(イ)	1
三年間の歩みを振り返ろう	210～214	(1)ア,ウ	(1)ア,イ,エ			6
文法						
一,二年の復習						
1 文法を生かす	216～228				1年(1)イ(エ)	
2 文法のまとめ					2年(1)イ(ウ)(エ)	
漢字に親しもう						
小学校六年生で学習した漢字一覧	229～230				(1)ウ(イ)	

合計時数 90

編修趣意書

発展的な学習内容の記述

受理番号	学校	教科	種目	学年
26-96	中学校	国語科	国語	3学年
発行者の番号・略称	教科書の番号・略称	教科書名		
38 光村	国語 931	国語3		

I. 発展的な学習内容一覧表

ページ	記述	類型	関連する学習指導要領の内容や内容の取扱いに示す事項
276~277	「発展」文語の活用 (文語の動詞・形容詞・形容動詞・助動詞の活用表)	2	高等学校国語科学習指導要領 【古典 B】 2 内容 (1) ア 古典に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解すること。 と関連する。

(発展的な学習内容の記述に係る総ページ数 2)